

# RE-MAIN(S)TENANCE

—海と都市を繋ぐ—



吉川 菜摘

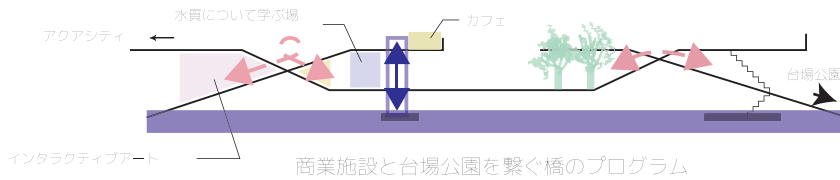
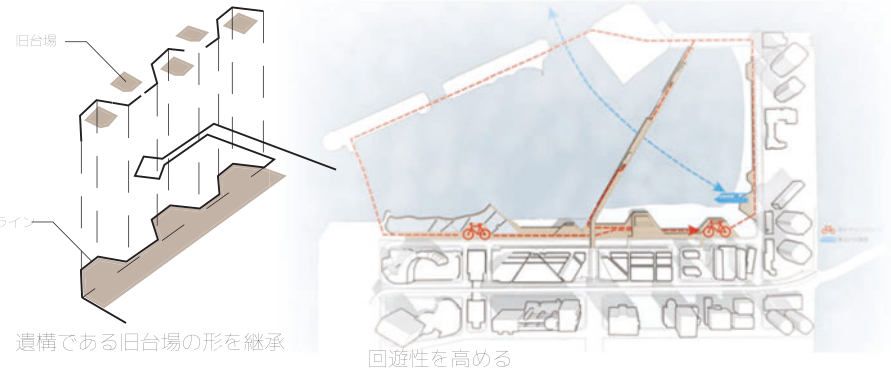
建築設計計画研究室

東京都港区台場一丁目

敷地面積 117089m

## □コンセプト

東京は江戸時代、縦横に水上インフラが発達し水の都として存在していました。しかし現在の都市は水辺との関係が希薄で、特にお台場は唯一の四方海に囲われた都市であるにもかかわらず、来訪者は海など自然に触れぬまま商業施設に留まり帰ってしまいます。更に、歴史的遺構が残る場所であるにもかかわらず全く知られていないことにも問題だと感じました。このランドスケープが都市と海を繋いでいき、訪れた人が台場の歴史や自然を肌で感じることができるようなになればいいと思います。



商業施設と台場公園を繋ぐ橋のプログラム

## □プログラム

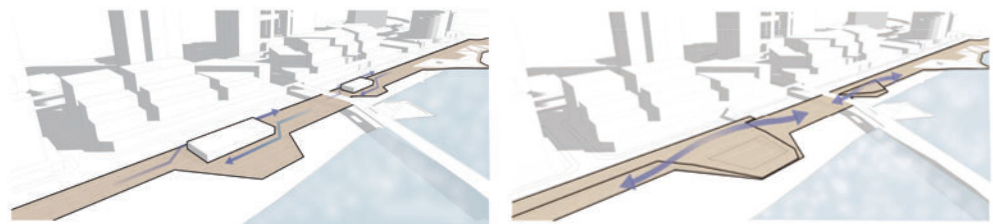
都市と海辺を繋ぐランドスケープと、水上バス乗り場、休憩所などカフェ、更衣室お手洗い、ボード保管庫、ホテルのサンセットバー、水盤、橋、周辺の建物のあるべき姿を設計しました。

まず、商業施設の大きなボリュームを分割し、海辺への視線の抜けや導線を確保します。その先にひとつながりのデッキが見え、更に台場公園に向かって橋が伸びていきます。

そうすることでお台場全体の導線を循環させました。



大きなボリュームの分割による視線の抜けと導線の確保



繋がるデッキを邪魔しないようなボリューム配置

## □デザイン

海辺まで降りてみると

建物の上を覆ったり、スロープになったりするひとつなぎのデッキが海辺をつないでいる。そのデッキから交差した形の橋がスッと伸びていて、橋の導入部分の体験型アートを楽しんでいるともうそこは海の真ん中。

上にのぼるとどん詰まりのデッキで海に飛び出しており海をより間近に感じられる。橋を進むと公園のような緑が続き、橋を渡り終えた頃には台場公園にいる。

そして今いる場所は歴史的遺構であったと気づく。



